

## 令和5年度（2023年度）第1回 豊中市食育推進部会議事録

1. 日 時：令和5年（2023年）11月7日（火）14時00分～15時20分

2. 場 所：豊中市立地域共生センター 会議室3（オンライン併用会議）

### 3. 案 件

- （1）令和3年度（2021年度）第3期豊中市食育推進計画年次報告書について
- （2）豊中市健康づくり・食育推進計画について

### 4. 出席者（敬称略）

- （1）委員（名簿順）：8名（委員数12名）
  - ・林宏一（武庫川女子大学）
  - ・飯尾雅彦（（一社）豊中市医師会）
  - ・森川幸次（（一社）豊中市薬剤師会）
  - ・前田雄治（豊中市老人クラブ連合会）
  - ・小池由久（豊中商工会議所）
  - ・菌部恵子（豊中市PTA連合協議会）
  - ・櫻井徳子（とよなか消費者協会）
  - ・西村裕（とよなか市民環境会議アジェンダ21）
- （2）傍聴者：0名

## 議事概要

○開会 14時00分

### ■副部会長の指名

部会長の指名により、副部会長は飯尾委員に決定。

### ■案件（１）令和３年度（2021年度）第３期豊中市食育推進計画年次報告書について

【事務局から資料１を用いて説明】

（質疑なし）

### ■案件（２）豊中市健康づくり・食育推進計画について

【事務局から資料２及び３を用いて説明】

【質疑応答】

委員	健康寿命の延伸について、100歳以上の方が年々増加している中で、大事なのは、健康寿命と平均寿命の差だと思う。大阪府に比べて豊中市は長いということだが、どのように算出しているのか。
事務局	平均寿命は存命期間であり、健康寿命は自立して生活できる期間。要介護２以上を不健康な期間として算出している。
委員	地域や社会とのつながりがあることで健康になると考えている。シニアクラブでの日帰り旅行だと、美味しい昼食を楽しみにしている人が多い。食が人生を楽しく、生きがいを持たせると思う。
委員	学校給食の食育の推進について、東京都足立区での食品ロス削減の取り組みのニュースをみた。化学調味料を使用せず出汁からとるなどの取り組みで、給食の残飯を1/3まで減らしていた。栄養も大事だが、子どもにおいしく食べてもらうような指標として、残飯の推移も指標になるのではないかと思う。
事務局	給食の残飯の推移については改めて回答する。食を楽しむというメッセージは引き続き発信していきたいと思う。
委員	学校給食について、先生方が忙しく、先生と一緒に楽しく食べるという雰囲気あまりないと感じている。コロナの影響もあって今も前を向いて食べている状況で、グループになっては食べられていないと聞いている。給食の味や内容に加えて、楽しく食べる時間も大事だと思う。
部会長	教育委員会からの出席はないが、この話を共有されるのか。
事務局	学校給食課に共有させていただく。

委員	主食・主菜・副菜のそろった食事の指標があるが、野菜の値段が高騰していて、なかなか難しい状況である。プランターを利用して家庭菜園など、野菜作りを推進することで、野菜を作って食べることに加えて生活の楽しみにつながるのではないかと。
委員	コロナにより講座やイベントがなかなか開催できなかったが、やっと開催できるようになった。しかし参加者が減少している。参加者を増やすための情報発信をどのように考えているか。
事務局	自治会を通じて体操の講座などのチラシを配ったりしている。色々な機会をとらえて発信できるように工夫していきたいと思う。
委員	情報発信の詳細や申し込みは、QRコードを使うようになってきている。スマホを使いこなせない人もいる中どのように考えておられるか。
事務局	申し込み方法についても電子と電話の併用ができるように工夫している。関連部署にも共有していく。
委員	最近、共働き世帯が増えて、子どもたちが家に帰ってもご飯を食べられないことも多く、子ども食堂という取組みがされているという話をよく聞くが、情報があれば教えて欲しい。
事務局	市内では32か所実施されており、市のポータルサイト「いこっと」で情報発信しているので活用されたい。
委員	食べるということが重要なことだと再認識した。医師会としてもサポートしていくが、健康寿命の延伸に取り組むにはオール豊中で取り組んでいく必要があると思う。
委員	家庭菜園の推進5か年計画を作ってはどうか。子どもと一緒に菜園をすることで嫌いな野菜を食べることができるようになるという例もあると思うし、作ることで食べることの楽しみができると思う。これからの子どもたちへの教育としても検討していただきたい。
事務局	資料3にあるように、子どもに限らず農作業体験などの取組みをしている。担当課と共有していく。
委員	学校給食について、とよっぴーのことで見学に来られると残飯が減ると聞いている。実際に見て感じてくれれば、もっとちゃんと食べられるのではないかと思う。出前授業もしているので検討・活用してもらいたいと思う。
委員	朝食を食べる頻度が週に2〜3回以下の人について、16〜19歳が2016年は8.1%だったのが2022年に19%に増えていて衝撃を受けた。中学生までは学校給食があり、意識も高いかもしれないが、高校生になると親も子も意識が減ってしまうのではないかと思った。この辺りの世代の人たちに大切さを繰り返し伝えていくことが必要ではないかと思う。親

	元を離れた 20~30 歳代の人がどんな食事をしているのか。孤食になる若い世代、将来子育てをされると思われる世代にどうアプローチしていくべきなのか。
事務局	現計画の評価にもあるが、30 歳代の男性で朝食の摂取率を高めていくことが課題であると考えている。
部会長	部会の前身である、食育推進協議会では、生産者と消費者といった交流についてなどの議論もあり、食育推進計画にも打ち出していたのではないかと思う。今回の素案そのものは分かりやすく整理されているが、世代間交流や生産者と消費者との交流などについては、内容が少し薄くなっているのではないかと感じている。交流といった点については、計画に直接打ち出してもいいのではないかと思う。
事務局	事務局にて検討させていただく。

#### ■その他

事務局	本日の会議について意見があれば 11 月 13 日（月）までに事務局まで連絡ください。 次回の食育推進部会は 12 月 7 日（木）にハイブリッド形式で開催
-----	---

○閉会 15時20分